

の活用の仕方を工夫すること。  
・復習や予習など、家庭での学習を習慣づけるために、学校と家庭とが連携・協力して指導すること。

② 通知表に代わる工夫

小学校での主な取組(成果)  
・長期休業前に自己評価表を作成させ、保護者に渡せた。  
・夏休みの前半に個人懇談を行い、学校での学習や生活状況を説明し、その子に合った課題を与えることができた。



③ 増加した授業時数の活用

中学校での主な取組(成果)  
・長期休業前に自己評価表を作成させ、保護者に渡せた。  
・夏休みの前半に家庭訪問を行い、学習や生活の状況を振り返らせ、自らの課題を設定させることができた。  
・中体連試合終了後の八月に、希望者対象の三者面談ができた。

主な成果

・単元によっては時間をかけて指導することができた。  
・スキル学習やドリル学習などで、繰り返し復習する時間がもてた。  
・従来の学校行事を、無理に削らずに実施することができた。  
・面談時間に余裕ができて、保護者の要望に応じることができた。  
・台風など、自然災害回避のための授業カットに柔軟に対応できた。

主な課題

・冬休み前の個人懇談などの持ち方について工夫・検討すること。

・増加時数が生み出す効果(メリット)を実感し、理解してもらった。

えるための工夫をすること。

④ 休業中の学習成果の評価

主な成果  
・自己評価で気づいた課題に取り組ませることによって、休業明けの学習意欲の継続につながった。

主な課題

・長期休業中の学習成果を評価し、記入できるように、通知表の様式を改善すること。  
・休業中の課題づくりをさせる際、学校で十分に指導しておくこと。  
・一人ひとりの具体的な課題を子どもと保護者にきちんと伝えること。

⑤ 長い期間での学習評価

主な成果

・小学校では、授業中の児童の姿をきめ細かに記録し、児童の自己評価も加味しながら、やる気を起こさせる評価となるように努めた。  
・中学校では、観点別評価と評定のあり方について研修を深め、きめ細かな観察資料に基づく客観的な評価となるよう努めた。

主な課題

・町や地域の行事、体育関係行事と学校行事との調整を図ること。  
・小学校では、11月末ごろに個人懇談を行う方向で検討すること。  
・夏休みを短縮して「秋休み」を設定した効果は少なかったこと。

主な課題

・保護者会や個人面談、家庭訪問などで、長期にわたるきめ細かな観察資料を基に、子どもの様子を具体的に伝える努力をすること。

⑥ 学校行事の工夫

主な成果

・行事の見直しで授業時数が増加し、学力向上の取組が充実した。  
・夏休み中に家庭訪問や三者面談、個人懇談を行うことで、授業時間を大幅に増やすことができた。  
・五・六月に運動会・体育会を実施することで、学級集団づくりや集団行動規律を早い段階で指導することができた。

・中学校では前期に体育会、後期に文化発表会を配置することで、年間を通したバランスがとれた。

二学期制を契機に

学校が変わる

学校では、子どもたちの「生きる力」の基となる「確かな学力・豊かな心・健やかな体」を育成することが何よりも重要です。そのため、これまでの学校のあり方を見直し、学校も教師も広い視点から改善を図る必要があります。二学期制の本格実施に当たり、各学校では、試行で得られた成果と課題を踏まえ、次のように改善していくことを申し合わせています。

① 試行の「成果」をさらに生かします。

ア 授業時数を最大限に確保し、きめ細かな授業を通して、どの子も「わかる・できる・たのしい授業」となるように授業を改善します。  
イ そのために、小・中学校の授業を互いに参観・交流し合い、教師の指導力の向上に努めます。  
ウ 週時制や長期休業中にスキル学習や補充学習の時間を確保し、その子に応じた学力を高めます。  
エ 通知表に代わる方法として、夏休み中に家庭訪問や個人懇談などを実施し、学習や生活の状況について詳しく話し合います。  
オ 授業中の学習活動状況を細かく記録し、学習評価に生かします。

② 「課題」を改善する手だてを講じます。

ア 学習意欲や態度などを注意深く観察・評価し、子どもに自信とやる気をもたせる評価に努めます。  
イ 「秋休み」をなくし、学期の区切り目を「体育の日」の前後

とし、夏休みを有効に活用します。

ウ 通知表の代わりに、夏休み始めの個人懇談と冬休み前の個人懇談を設定し、児童の自己評価表や学習の結果、行動の記録などを基に児童の様子を詳しく説明します。  
エ 「指導方法工夫改善教員」を中心に、TT授業(ティームティーチング)一学級を複数の教師で指導する授業)を通して、きめ細かな学習指導を実施します。  
オ 生徒による授業評価を基に、すべての教科で問題解決的な学習を取り入れ、生徒の学力を上げていきます(須恵中)。

③ 学校改善の、さらに新しい取組を展開します。

ア 「確かな学力」を身につけた児童生徒を育成するため、「学力向上プロジェクト」を設置して、主体的に学び、学力を伸ばす学習支援を家庭と連携して展開します。  
イ 授業や家庭学習で頑張ることや評価の観点・方法などを示した計画書「シラバス」にそって、



生徒の主体的な学習を支援していきます(須恵東中)。

ウ 読書活動を盛んにし、読書感想文・感想画展などを企画します。  
エ 日ごろの学習活動の成果を広く町民のみなさんに理解していただくため、小中学生による「子ども総合文化発表会」を企画します。

二学期制を通して、学校が変わり、教師が変わり、子どもが大きく飛躍できるよう、町民のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願ひします。

